

白田亞浪 オキナ 俳人。明治十二年一月一日長野縣生れ。昭和二十六年十一月十一日没（八十九歳）。本名卯一郎。別號一菟、亞浪生、北山南水樓、石楠、石楠堂書屋人、石楠化等。明治二十七年法政大學卒業。電報通信社記者、可横濱貿易新聞編輯長、可必志新聞編輯長歴任も、大正四年俳誌『石楠』を創刊主宰して俳人生活の専念、有力門人多數輩出。

著書『曲郷南洲言行録』（白田石楠名、編、明治四十年十一月十二日

鼎記社、東亞堂書房發賣）、渡邊千秋著『楓閣無邊一茶俳句一色評』（丙

題『一茶俳句兄弟一色評』本名、編、明治四十四年八月八日好文堂）、

鳥田九萬字選輯『山靈』（刪存、大正十一年十一月二日長野・山發行

所）、可評釋『親の名句』（大正十五年十一月五日、再刊・昭和六年一

月二十日、九年一月二十日登文堂書店『最新俳句評釋叢書』）、句集

『山光』（刪存、昭和十年四月二十八日石楠社）、可俳句作法講座『

（合著・山本三生編、第一卷・昭和十年十月二十日、第二卷・十一月

二十日改造社）、可俳句の第一門』（福馬小齋共著、昭和十二年四月

十日文藝社）、句集『白道』（昭和二十一年五月二十日長野・北信書

房）、可俳句讀本（改訂版）』（青柳善々共著、昭和二十一年六月一

十五日大阪・増進堂）、可俳句の旅のゆく』（昭和二十一年七月二十

日長野・北信書房）、可現代俳句の作り方』（昭和二十四年一月十五

日水文出版社）、可定本亞浪句集』（昭和二十四年

四月十五日石楠社）等。



文獻、山山曲水編『千曲の川音一白田亞浪翁顯彰記念帖』（昭和二十七年五月十八日長野・白田亞浪翁

應會)、『白田時義集』(附註)二十七年十一月二十七日(白田時義集)等。